

約6ヶ月間の派遣留学が終了しました。この留学生活は想像以上に短く、あっという間で正直、日本に帰国したくない気持ちでいっぱいでした。帰国してからは口を開けば「アメリカ良かったな・・・」の一言に親は呆れていますが、とにかくアメリカに留学して本当に良かったと思っています。

アメリカは肌の色や文化的背景の異なる様々な人たちが世界中から集まっており、様々な人種が共存している国です。私が住んでいたインターナショナルハウスという寮ではいろいろな国籍や文化も違う学生達と共同生活をします。当初は初めての共同生活に戸惑いを感じましたが、インターナショナルの仲間達に温かく迎えてもらいすぐに皆と溶け込むことができました。ここで今後このプログラムに参加する方達にアドバイスですが、アメリカ人は日本人に比べて自分をアピールすると言われてるので、恥ずかしがらずにしっかりと自分の個性をアピールすること。また、寮で暇な時は部屋のドアはなるべく開けておくと良いと思います。日本ではいつもドアは閉まっていると思いますが、ドアが開いているといつでも入ってきてもいいよという意味らしく、同じフロアに住む学生達が気軽に部屋に入ってきて話し掛けてくれます。あとアジア人は固まって母国語を話す傾向があるので、日本人とばかり話すのではなく、英語を母国語とする外国人と行動を共にするよう心掛けた方が英語の上達も早いと思います。英語を身につけるのは本人のやる気と努力次第であると思います。ロチェスターは田舎でしたが、周りの人達、先生方はとても親切で何も心配することはありませんでした。

この留学生活を思い出すと、今までの人生の中で一番充実していた時間だったと思います。アメリカの大学で授業を受講し実際にクラスで学べたこと、多民族社会の中で異文化を体験でき、様々な価値観、各国の文化・民族性を見ることができたこと、素晴らしい教授、友人達に出会ったことなど毎日が刺激的で、たくさんの事を学ぶことができました。もちろん楽しいことばかりでなく辛いこともありましたが、この6ヶ月間、自分の勉強したいことに集中することができ、自分一人の時間が多くとれたのでいろいろなことをじっくり考えられる良い機会となりました。この留学でいろいろな人に出逢っていろいろな体験ができ、異文化に触れたことで、日本、そして自分自身のアイデンティティーを再発見することができました。私にとってこの留学は、視野を広げ世界に目を向けると共に、日本を見直すまたとない機会となりました。このような経験は、今しかできない本当に貴重なものだと思います。この半年間で得たものを大切に今後、いろんな事にチャレンジしていきたいと思っています。このような機会を与え、サポートし応援して下さった金沢工業大学、札幌教授、国際交流室の方々、大島教授、両親、友人達に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。今後も後輩達が続いてこのプログラムに参加し、このような素晴らしい経験ができることを願っています。